

一般選抜A日程 国語

出題分析

1 出題数

試験時間は60分で、大問3題の出題となっている。小問は22問であり、解答数は43個である。

2 出題形式

大問1が論説文の読解問題、大問2が慣用句・ことわざ・四字熟語などの語彙や文学史の問題、大問3が小説の読解問題という出題構成である。読解問題では、漢字問題、語句の意味を問う問題、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部について内容・理由や心情を問う問題、人物像を問う問題、内容合致を問う問題のほか、大問3で口語文法の問題も出題されている。

3 出題傾向

大問2で、語彙や文学史を問う問題が10題出題されるという点が大きな特徴である。また、大問1、大問3は、出題される文章のテーマは変わるが、例年同傾向の出題が続いている。出題傾向については、過去問題に取り組むことで実感できると思われる。全体的に基本的事項が問われている出題であり、もっている国語力がそのまま得点に反映されるような出題となっている。

4 難易度

語彙や文学史を扱う大問2は特段難しい出題はないが、ある程度の語彙力、文学史の知識をつけておく必要がある。大問1、大問3は大学入試問題として標準的な難度といえる。また、出題内容については、文脈の把握力や内容把握力などの読解力が出題形式で述べたようなさまざまな出題で試されるが、全体的に基本的事項をおさえた出題であり、しっかりと準備をしておけば十分取り組める内容となっている。

受験対策

1. 問題集を使って知識問題や漢字問題の対策をしよう

四字熟語、慣用句・ことわざなどを問う問題が必出のため、この分野が不得意な人は早めに対策を立てておこう。問題集を数冊こなして、過去問題に取り組んだときに7～8割は得点できるようにしておくことが重要だ。文学史・口語文法についても対策は立てておこう。文学史については著名な作家と代表作、口語文法については紛らわしい語の識別と助詞・助動詞について集中的に学習するとよい。

2. 毎日問題に取り組み、読解力を養おう

大問1、大問3の対策としては、問題演習を行うことが一番の対策となる。1日に2題、1週間に10題などと取り組む問題量を決め、計画的に取り組むことが大切である。取り組む際には、①時間はかかってもよいので、十分に問題文の内容をつかむようにする、②解答を出す際には、必ず解答の根拠を押さえるようにする、③復習は必ず行い、問題文の内容を振り返るとともに、解答の導き出し方を押さえる。④問題文に出てきた意味のわからない言葉については必ずその意味・用法を確認しておく、などの点に留意するとよい。

3. 過去問題を活用し、学習に役立てよう

受験勉強は長丁場である。目標をしっかりと定め、効率的に学習を進めるようにしたい。まず過去問題に取り組み、現在の力をはかってみよう。そして、現在の力を合格できるだけの力に伸ばしていくにはどのようなことが必要か、自分自身で確認してみよう。過去問題に取り組むことは、出題の傾向を知るだけでなく、現在の力を知り、今後どのように学習を進めていくかを考える大きな手がかりになる。できるだけ早い段階で過去問題に取り組むようにしたい。